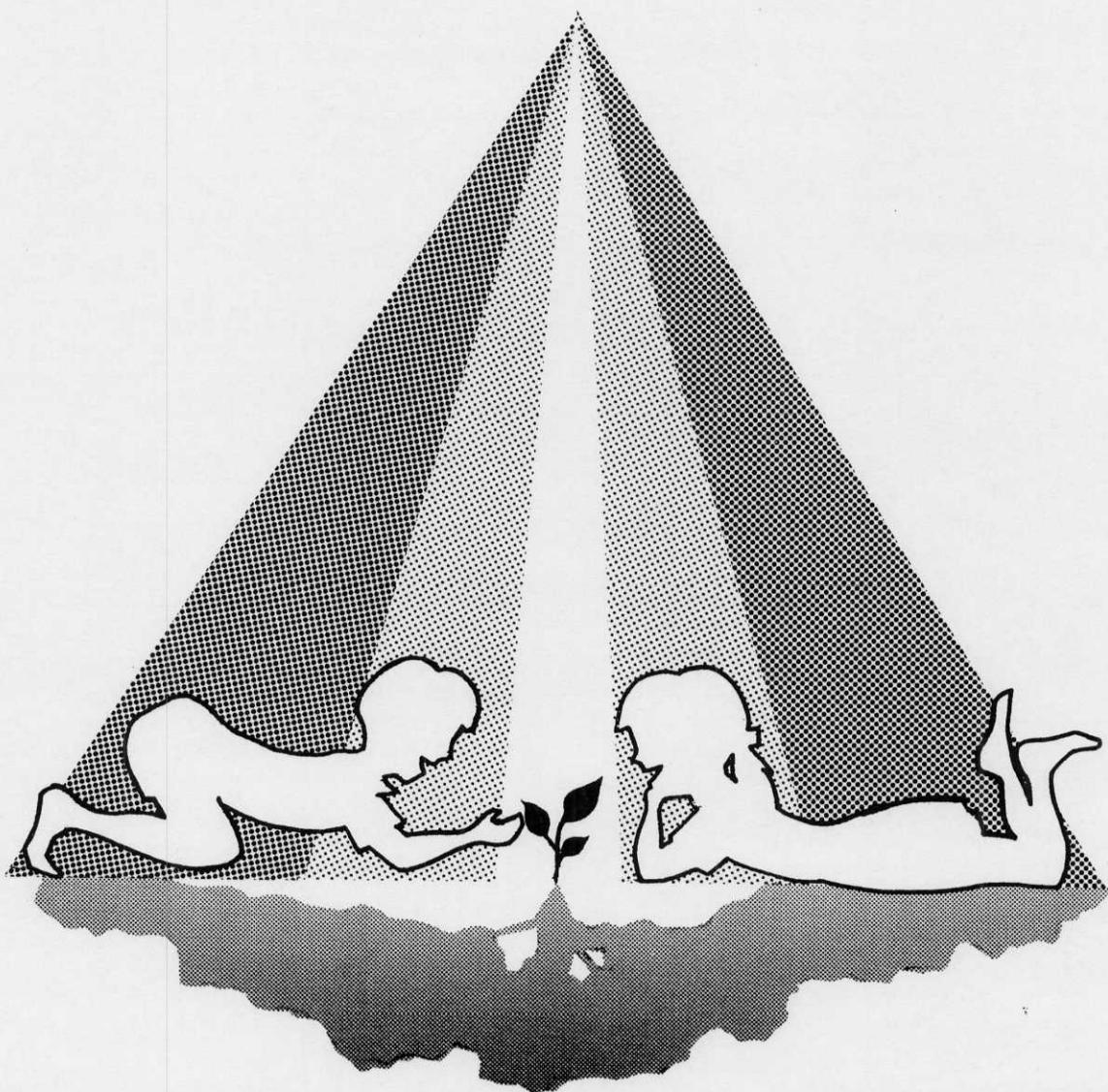
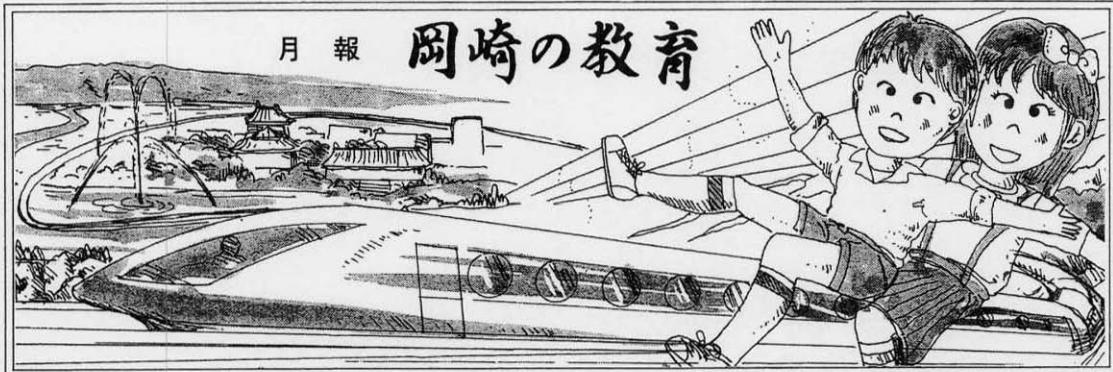


# 月報岡崎の教育

平成元年度 No.191～202



岡崎市教育委員会



4月号

希望と喜びを胸に抱いて  
友達と手を取り合いながら  
ドレミファ階段を登る

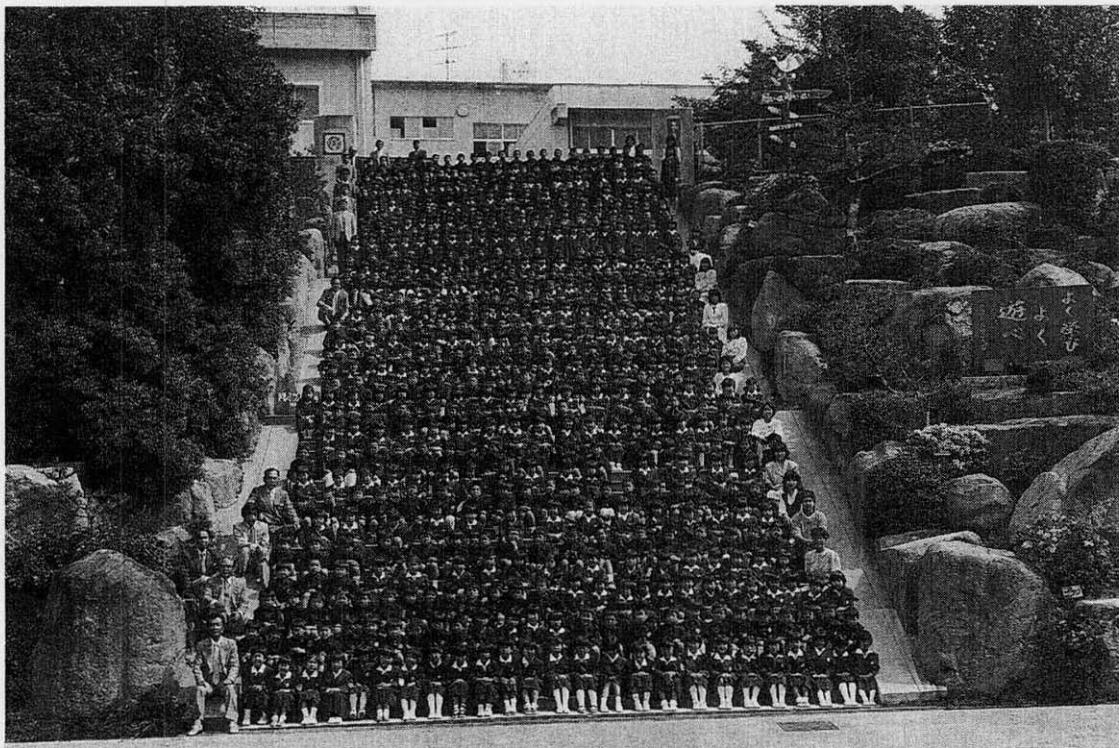
周りの樹木も常磐つ子の  
すこやかな成長を願つて  
新しい息吹きを与えてくれる

太陽も一人ひとりの  
常磐つ子を見つめながら  
やさしく励ましてくれる

太陽のように明るく  
若木のように伸びる常磐つ子

(希望に燃えて)

平成元年4月1日  
発行／編集  
岡崎市教育委員会



(全校そろって…ドレミファ階段－常磐小)

昭和二十一年四月、旧制最後の中学生として岡崎中学へ入学した。一学年二十名（現在はもつと少ないらしい）といふ過疎の村の小学校を卒業して出てきた子どもには、見聞きするものすべてが珍しく、まごついてばかりであった。入学試験で校長先生の面接があつて、五人ずつ呼ばれて中へ入り質問を受けた。廊下で一緒に待っていたが、ほんやりしているうちに傍らにいたはずの四人が煙の如

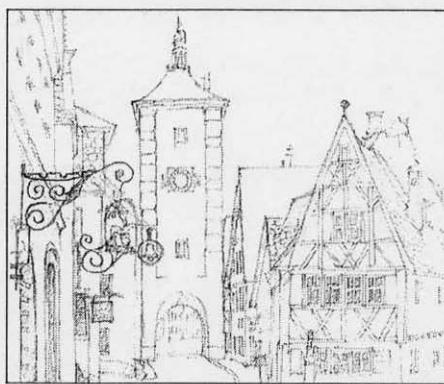
の上に置いておくとどうなるかという質問であった。田舎では腰まで泥につかって田植えなど手伝っていたから、これはわけない。豆は芽を出さないが、じやがいもは芽を出すと答えると、校長先生は大きくななずいて、それではなぜそうなるか知っているかね、といわれた。はたと困った。そんなこと考えたこともない。知りませんと答えると、校長先生は、植物が芽を出すには水分が必要である。じ

たとえ大人になつても、自分だけの知識、判断だけでは万全ではない。独断は極めて危険である。以来、私は慎重人間になつたとしても不思議ではない。できるだけ多くの人の意見を聞きたい。いろんな立場の人話を聞きたい。命の次に大切なのは名誉でも金脈でもない。人脈こそ財産と考えるようになった。

### 「一〇〇パーセント発言」の授業

社会科指導員

山内博史



### 一 教育隨想

# 失敗の教訓

築瀬正邦

やがいもには水分がたくさん含まれているが、豆には少ないので丁寧に教えて下さった。科学の原点を教わったと知つたのはもつとあとのことである。

小さな経験でも百聞一見に如かず、百見一見に如かずである。ゴルフでも開基でも、一流のプロは試合で失敗した場面、勝ちを逃した局面をもつともよく記憶しているという。逆にアマチュアは偶然うまくいった好運を実力と錯覚する。ただ、個人の経験だけを頼りにしたのでは、人間が狭くなる。そこで、みんなの経験を

く消えてしまつて、さて自分はどうすればよいのか分からず慌てた。うろうろしていると、とあるドアが開いて此方へこいといわれ、ほつとしたのもつかの間、百すつかり気が動転して、何を聞かれたのかもほとんど覚えていない。ただひとつ、記憶に残っているのは、机の上に豆と同じ中に埋めると芽が出るが、このまま机

電車がきたら危険である。もっとも近い岡崎公園駅へ行つて、時刻表を上下線と合わせて、充分に間隔のある時間も丹念にしらべ、切符のおじさんに見付かつて叱られた。電車が轟音たてて通りすぎていったのはその直後だった。これはショックだった。自分なりに周到な調査と準備をして実行した冒険のつもりだった。ぱつと出の子どもには、急行というものがあることが予測できなかつたのである。このことは私には強い印象として残つた。中学一年の未熟な思考では当然のことであるが、たとえ大人になつても、自分だけの知識、判断だけでは万全ではない。

たとえ大人になつても、自分だけの知識、判断だけでは万全ではない。独断は極めて危険である。以来、私は慎重人間になつたとしても不思議ではない。できるだけ多くの人の意見を聞きたい。いろんな立場の人話を聞きたい。命の次に大切なのは名誉でも金脈でもない。人脈こそ財産と考えるようになつた。

先ず導入の段階で、賴朝のTPをマスクしながら投影し、生徒の気持ちを集中させ、學習の雰囲気を盛り上げた。次に、武家屋敷のTPとかさがけの絵書かせた。そして、生徒たちに次々と自分の考え方を発表させた。その間、教師は「ちょっと待つて、どこのこと?」と聞いていた。それは、「鎌倉武士団の強さの秘密」に迫る授業であつた。

中学校では、生徒が発言しないといふはやきを聞く中で、授業構想によつてはそんなことはないという授業が、S中学校のY先生によつて行われていた。

それは、「鎌倉武士団の強さの秘密



（岡崎市医師会会長）

がつたりするだけであつた。

また、生徒の中にはどうしても挙手で

きない者がいる。それを、Y先生は机間

巡視で座席表にチェックし、ほかに挙手があつても、その子が自信が持てる適切

**声楽家**

澤脇達晴 氏

音楽を愛する人が増えていても、岡崎市では地元の音楽家による演奏活動が少なかった。そんなおり郷土の音楽文化の向上、新人の発掘などを目指して岡崎音楽家協会を昨年四月に設立、その記念コンサートが「せきれいホール」で十二月に開催され、多くの市民に感動を与えた。

岡崎音楽家協会の設立に尽力され、協会の代表者である澤脇達晴（みちはる）氏と男川駅に近い自宅でお会いした。氏は東京芸術大学院オペラ科を修了され、現在は名古屋芸術大学の専任講師であり、名古屋・大阪など西日本で演奏活動を続けておられるところを聞きした。

音楽を愛する人が増えていても、岡崎市では地元の音楽家による演奏活動が少なかった。そんなおり郷土の音楽文化の向上、新人の発掘などを目指して岡崎音楽家協会を昨年四月に設立、その記念コンサートが「せきれいホール」で十二月に開催され、多くの市民に感動を与えた。

澤脇氏は静岡の御出身だが、お仕事が名古屋を中心ということから岡崎に十年前から在住されている。

澤脇氏は現代の若者像の一面について次のように語られた。

「音楽を学ぶために大学に入ってきたのに、人前で歌うことを恥ずかしがつて行くのは大変だぞ。」と言われましたが、この道で進むと心に決めました。高校に入ってから声楽をやることになったのですが、これは変声期を過ぎたのでいいだろうということもありました。

ひとりの先生に師事したのですが、前から習っている者にはかなわないのです。練習したものです。そのうちに声楽が好きになってしまったのです。

## ふるさとシリーズ

# この人に聞く



「岡崎は中部地区でも音楽家が大勢いるところなのですが、それぞれが潜在的には活動していても表面に出ることが苦手とというのか、おとなしい所なので目立たないので。他都市では早くから音楽協会があり演奏活動の中心となっているのです。岡崎にも三十年ほど前にはあつたようですが、会場難から無くなってしまったようなんです。

とにかく岡崎にそれが無いというのが不思議だったのです。そこで地域に密着した活動をしようと、地元の音楽を志す者が集まって音楽家協会を作ったのです。会合は月一回、欠町の音楽店事務所をお借りして行っています。会員は四十八名、若手の方が多いです。五月には新人演奏会を開く予定ですか

ら大勢の方に来ていただきたいですね。」澤脇氏は静岡の御出身だが、お仕事が名古屋を中心ということから岡崎に十年前から在住されている。

澤脇氏は現代の若者像の一面について次

のように語られた。

「音楽を学ぶために大学に入ってきたのに、人前で歌うことを恥ずかしがつて行くのは大変だぞ。」と言われましたが、この道で進むと心に決めました。高校に入ってから声楽をやることになりましたが、これは変声期を過ぎたのでいいだろうということもありました。

ひとりの先生に師事したのですが、前から習っている者にはかなわないのです。練習したものです。そのうちに声楽が好きになってしまったのです。

一方、暗算力も大切である。

- ・二位数と二位数のたし算とひき算
- ・二位数と一位数のかけ算とわり算

程度の暗算力は日常生活において必要である。およそどのくらいになるかという



な場面で指名し取り上げていた。  
全員が発言する授業をつくるために、「教師のやるべきこと」は何かを、改めてY先生から教えられた授業であった。

## 電卓を使っていいの

算数・数学科指導員

柴田 隆夫

「円周は直径の約三倍だと思います。」

「円周を直径で割ってみれば分かるよ。子どもたちの意見を聞いていたS先生は机の中から電卓を取り出した。

「それでは、みんなも電卓を使って、円周÷直径の計算をしてみよう。」

新しいものの導入に大喜びする子どもたちの声……。A 小学校、五年、円周率の学習の一場面である。

今回の指導要領の改訂では、算数・数学に限らずコンピュータ等の活用が強調されている。普段の授業で手軽に取り入れられるものに電卓がある。それを活用して楽しい算数の授業づくりに取り組まれているのである。

数値計算を行う場面では、子どもの負担を軽くするために、必要に応じて電卓を活用すればよいのである。

一方、暗算力も大切である。

- ・二位数と二位数のたし算とひき算
- ・二位数と一位数のかけ算とわり算

程度の暗算力は日常生活において必要である。およそどのくらいになるかという

始穩やかな口調の澤脇氏であった。

(生年月日 昭和二十五年十二月八日)

音楽教育についても指導をされたが終らないからです。」

泽脇氏は名古屋芸術大学の専任講師であり、名古屋・大阪など西日本で演奏活動を続けておられるところを聞きした。

# 学校教育の視点



— 平成元年度 —

(一) 学ぶ楽しさを感得させ、自ら学ぶ態度や習慣を育てるために

知りたい、学びたい、伸びたいという無限の希望に燃えているのが子供である。子供は、自らの手で問題を解決した時、大きな喜びを感じ、自信を持ち、次の活動へと胸をふくらます。

一人ひとりの子供が自ら考え、自ら学ぼうとする自主的な学習態度の形成を願い、特に次の二点に留意し、指導したい。

第一は、一人ひとりの子供がそれぞれの問題を、自分自身の学習課題として把握できるようにすることである。

一人ひとりの子供が、問題を自分の課題として切実に感じていけば、それを追究しようとする気持ちも必然的に意欲的になるにちがいない。したがって、教師は、子供の実態を的確に把握し、子供が驚いたり、疑問を持つたりするような適切な教材を選ぶことである。その提示に当たっては、ただ子供の興味、関心にとらわれないよう緻密な指導計画のもとで目標が達成できるよう配慮することが必要である。

第二は、依頼心を断ち切り、自力で出来るところまで立ち向かわせる努力と工夫を図りたい。

時には、子供を意図的に困難に追い込み、子供が自らの手で問題を解決するまで辛抱強く待つことのできる教師でありたい。そのためには、常に一人ひとりの子供の能力や意欲、そして、その子供の

伸びようとしている芽を的確にとらえていくことが大切である。そして、教師は、常に一人ひとりの子供の日々の姿を注意深く見守り、それぞれの子供に応じた支援ができる能力や技術を高めるように努力したいものである。

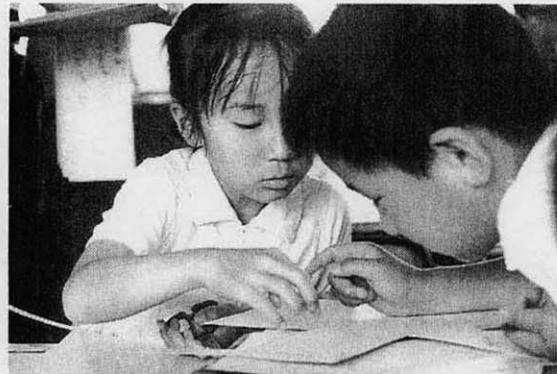
(二) 礼節を重んじ、こころゆたかな児童生徒を育てるために

今日の文化は、日々急速な発展を遂げ、私たちの生活は満ち足りたものとなっている。しかし、この物質面での豊かさにひきかえ、人の心は狭く、貧しいものとなってきた。著しい都市化や核家族化の波に、子供たちの日常生活は、自然や人とのかかわりが希薄となり、甘えや無責任で衝動的な言動が目立ってきていた。

この現実をしつかりと見極め、「礼節」と「ゆたかな心」を重点に、学校教育の全てを通して、心の教育の実現を図っていかたい。

礼節については、特にあいさつと返事を大切にしたい。あいさつは、大きな声ですればよいというものではない。その時、その場、目的に応じた心の通う明るいあいさつがしたい。自然に笑顔であいさつを交わすことにより、師弟の間には敬慕と慈愛の心が、友達の間には温かな友情が育つてくれる。

教師と子供とは信頼関係で結ばれている。しかし、友達や仲間ではない。そこ



教育は創造的な営みである。

二十一世紀に向かう教育の指針として学習指導要領が告示され、その先導的試行もいくつかなされている。こうした状況の中で、私たちに求められているのは、教育者としての使命感と創造的な教育活動である。

学校教育に対する批判は多いが、一方で学校教育に期待する声もまた大きい。岡崎の教師は、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係をさらに強め、学校・家庭・地域一体となって、岡崎の教育の継承と発展に一層の努力を傾けた。

## 指導の重点

- 一、学ぶ楽しさを感じさせ、自ら学ぶ態度や習慣を育てる。
- 一、礼節を重んじ、こころゆたかな児童生徒を育てる。
- 一、自らを律し、たくましく生きぬく力を育てる。

(三) 自らを律し、たくましく生きぬく力を育てるためた

には当然長幼序がある。尊敬すべき人の恩、師弟の関係について、礼節の大切さを子供たちに教えることが大切である。もちろん、私たち教師は、子供たちが心から慕い、敬ってくれるような人格と力量を身につける努力を怠つてはならない。

ゆたかな心については、次の点に留意したい。

その一是、野外活動や勤労体験学習、養護施設との交流学習等を通して、汗を流すことの尊さ、弱い者への思いやりの心を育てることである。

特に、野外活動で積極的に自然に親しむことを通じて、命の尊さとたくましさ、時には恐ろしさを教えてくれる。郷土岡崎は自然に満ちている。四季折々に変化する自然の中で、考え方を変化させるさまざまな体験をし、ゆたかな心をはぐくむことができる。

その二是、心の安定を図ることである。子供たちは、日常生活の中で、意欲的に取り組み、自分の力を出し切った時、心は充実し、安定していく。やる気は子供が伸びようとする力であり、自己を高めていく原動力である。一人ひとりの子供が、個人の能力に合った目標を定め、自分の意志で努力していく体験を積み重ねる中で、こころのゆたかさは育っていく。

かつては、家庭が近隣社会と一体となつて、人として守るべき道を教えてきた。しかし、今日その教育力は低下し、さまざまな問題が生じてきている。

だから、自分で自分の生活を律していき、言葉遣い、時間や規則を守ることなど、集団生活に必要な基本的なことを、体得できるまで機を逃がさず、繰り返し指導したい。その体得の過程で、自己の規範が芽ばえ、自律の心が育っていく。

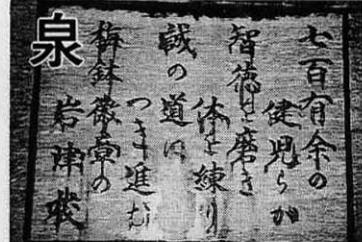
第二は、困難に立ち向かう力をつけることである。目標を達成することはたやすくではない。たとえ失敗しても挫折することなく、再び挑戦する精神と粘り強さを持たせたい。そのためにも、教師は、子供の努力をじっくり見守る余裕がほしい。

第三は、子供の遅々とした努力でも認めることである。敬愛する教師の称賛はどう子供の心を奮い立たせるものはない。子供たちは、やる気と自信を深め、将来を見通す力もついてくるのである。表面に現れた結果は誰にでもほめられるしかし、教師は、陰に隠れた子供たちの努力を見守り、称賛することこそ肝要であ









岩津小学校

# 校歌

卒業式で、入学式でと、校歌はすっかり学校行事の中に根づいている。その校歌定着のあとをさぐってみた。

現在、市内で歌われている校歌のうち、最も古いものは岩津小学校校歌で、昭和六年に制定され、今に歌い継がれている。ところで、戦前に制定されたのは岩津小だけで、あとは全て戦後の制定となっている。中学生では昭和二十三年の東海中から始まって、二十八年までに八校の校歌が作られている。小学校では二十四年の広幅小を皮切り

にして、三十年までに十校で制定されている。

このように制定の時期は昭和二十年代後半に一つの山がある。それは、終戦直後の混乱から抜け出し、落ち着きある学校作りが軌道に乗り始めたことの表れとも考えられる。

昭和五十一年刊行の『岡崎市小中学校校歌集』の扉にはこう記されている。

明日の岡崎を築く礎である。

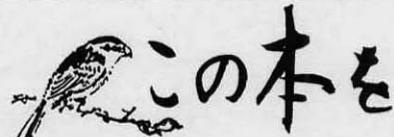
「おはよう。」—新しい仲間たちに。「おはよう。」—新しい教室に。うらうらと春の陽こぼれる中、子供たちの声が響き合う四月。それぞれのランドセルの中には、大いなる期待と、ほんのちょっぴりの不安を詰めて…。

新しい季節の始まり。心の紐を締め直し、今、スタートだ。

四月になると、昔読んだある一年生の詩を思い出す。大要は、入学式に「あの子の弟だ。またいたずらするよ」と話す先生の声が耳に入つたその一年生、「何がいたずらするねんばく、べんきょうしたかったんやのに。」と叫ぶ。純粋な心を、色めがねで汚すことのない教育をせねばと思う。



「好きこそもの上手なれ」  
「教育実習の指導で教室をのぞかせて貰いますが、本来、音楽は自由で好きなものをやるはずなのに、教室では四角四面のものをやらざるを得ないのですかね。もっと楽しむことを工夫すべきでは」これは声楽家の言葉である。  
さあ、今年の授業はどうしよう。



- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| *西行             | 白洲正子           |
| 新潮社             | ¥2000          |
| *指導力の豊かな先生      | 宗内敦            |
| 図書文化社           | ¥1200          |
| *トゥイナーたちのニューヨーク | 多賀幹子           |
| 時事通信社           | ¥1200          |
| *伴侶に先立たれ時       | A.テーケン<br>重兼芳子 |
| 春秋社             | ¥1300          |

- |         |       |
|---------|-------|
| ※我が出会い  | 大山康晴  |
| リクルート出版 | ¥1200 |

人間だれしも、人との出会いは避け通ることができない。出会いの良し悪しによって一生が決まると言われている。将棋の大山名人は、将棋界の頂点を極めた。当然、本人の並々ならぬ努力と苦労があってのことだが、出会った人たちの教えや励まし、そして、支えがあつてのことである。出会った人たちに感謝しつつ書かれている。

人生の成功の鍵は、豊かな人脈にありと語る著者である。

・題字	岡崎市長
・タイトルバック	矢南小
・表紙写真	太田根
・表紙詩	岡田根
・カット中文字	金二
・カット中文字	整夫
六美中	矢北中
六美中	常磐小
六美中	岩月
六美中	倉達
六美中	根雄
六美中	鎮夫